

令和4年度産業人材育成推進協議会内容

日時 令和5年2月15日(水) 13:30~15:10

場所 福島県立テクノアカデミー浜 101 教室

出席者 所属

南相馬ロボット産業協議会
福島県自動車整備振興会
福島県建設業協会
株式会社ゆめサポート南相馬
相馬商工会議所
福島大学地域未来デザインセンター
福島県立小高産業技術高等学校
南相馬市
相馬市
相双公共職業安定所
相双地域振興局
テクノアカデミー浜

校長あいさつ) コロナもあり3年ぶりの開催である。自主計画・事業について説明をした後、御意見をいただく。

本校の指導員だけでは、質の高い教育は達成されず、地域の皆様のリソースを最大限活用した指導が不可欠である。課題についても、我々だけでは広がらない。皆様からの協力を心より願う。委員からのご意見を達成できるように進めていく。よろしく願う。

議事

(1) 地域貢献プランの進捗状況について

委員) この地区のロボ協メンバーは78社、23団体加入している。新しい進出企業は2社。ほかの地域から参入してくるにはしっかりとした人材確保と育成が不可欠である。この地域では、小高産業技術高校とテクノアカデミー浜の2つが育成施設である。計画をもって、しっかりとした人材を育てることが重要だと考える。テクノアカデミー浜の位置づけはどうなっているのか。位置づけを明確にするにはコンセプトが必要ではないか。テクノアカデミー浜は、地域のものづくり産業を支える人材育成だが、実際は何をしているのか。小高産業のコンセプトは、「テクノロジストを育てる」テクノロジストとは、座学の部分と、技能向上の部分がありテクノアカデミーと共通しているのではないか。

テクノアカデミー浜では、2年の後半に卒業研究があるが、実際には学生が自ら考え取り組

む事ができていないと考える。地域の企業の問題を長期にわたり解決することの方が学生にとって、価値があるのではないか。卒業研究について企業と共同で課題研究をすると地域企業との Win-Win の関係が築けるのではないか。テーマを考えるにあたって、課題に研究すると、地域からの認知度が上がるのではないか。

校長) 本校は、2年課程でありその時間数は2,800時間である。厚労省からはロボエネ、自動車整備科については、決められた2年間のカリキュラムがあるが、機械・建築科については元々1年課程をベースにしているので自由な時間がある。委員からのお話があったように、そのような活動があれば企業も、本校にとってもよい活動ではないか。今後取り入れていきたいと考えている。

委員) この地域の会社は、2代目にさしかかっているが、どの社長もこの街を活性化させたいと積極的に活動している。とても良い話となるのではないか。

委員) 令和9年度から、整備士資格においてガソリンとディーゼルの垣根がなくなる。電気自動車も新たな分野に取り掛かり、今後はコネクテッドになる。今後、入学する学生たちは、学ぶ内容が多く授業内容が難しく思ってしまうため、ハードルが上がり挫折してしまうことが危惧される。さらに、心がついていかなくなってしまうことも予想できる。昨今は、世界の動向が目まぐるしく、ドイツや中国が対等する中で学生に求めるスキルが高くなってきている。給料も見合ってなく、恵まれている職業かというところという職業ではない。自動車整備振興会は震災前相双地区では155事業所あった事業所も震災後100事業所を切り、令和3年時点で相馬地区の事業所は114社あり、どの会社も人材が欲しい。さらに年齢層も50代の方も多いのが現状である。子供たちに見せる自動車業界の将来が明るくならない。自動車整備科は必要である。

委員) 自動車の話でもあったように、能力開発校で実技を学べるのは、とても貴重な事なのでどんなことがあっても続けてほしい。震災後の一時的な土木関連の需要は起きたが、今は落ち着いて技能者が離れている。周りを見渡すと建築の専門学科は相双地域にない。小高産業にも建築科がない。進出企業にとっても重要な話で、学科を残して人材を育成していただきたい。地元の企業が盛り上げていかなければならない。先日のキッザニアでは80人の子供が重機の運転などを体験してくれる現状を見て、小中からテクノアカデミー浜と交流をすればいいのではないか。子供たちは、この地域を知らない子供が多く、キッザニアなどで学生を動員し、普及させてもいいのではないか。各地域で連携できればいいのではないか。我々も頑張るので、学校でも定員の充足を図ってほしい。

委員)MIC のスタートアップ企業は難関を突破し、優秀で熱心な企業ではある。課題として、場所不足と人材不足。人材を確保するために、テクノアカデミー浜は様々な活動を続けてほしい。航空宇宙関連企業である、インターステラの内部ではベーシックな作業が多い。具体的にはアルミの溶接やステンレスの溶接、旋盤・フライスの基本的なもの。今年度、オーダーメイドのセミナーをしていただいたが、進出企業では育成の体制が整わず今後もしていただくと助かる。テクアカへの入学人数が少ない件について、各イベントで出店することは大きな効果があると思う。今後も継続してほしい。

委員)人手不足が合言葉であると感じた。企業が求める人材と、テクノアカデミーで育てる人材のマッチングができるように、様々な課題が達成できるように商工会議所も協力していきたい。

校長)本校では職員も欠員している。職員確保についても協力を願う。

委員)近年、STEAM 教育、STEM 教育のようなサイエンスとテクノロジー、環境、数学、芸術をミックスしたような教育が大学でも採り上げられている。PBL 教育や SBL 教育のようなより実践的な実体験に基づいた教育も進められている。そういう面からすると、テクノアカデミーでは、モノづくり人材の育成に力を入れており、リアルスカイプロジェクトやソーラーカーのような実学的教育に取り組んでいるのはとても良いことだと思う。入学志願者の増加に向けては、単にチラシを配るだけではなく、在学生が学校生活やクラブ活動等のことを対外的に SNS 等を使って情報発信すべきではないかと思う。また、大学と貴校の連携に関しては、大学の先生は正直言ってモノづくりは得意ではなくプロセスを考えることやエビデンスを作ることには長けているのでそういった点を考慮する必要がある。産学官連携に関しては、そういったことに関心のある先生は全体の 1/3 程度で、教育・研究・地域貢献と昔よりも先生方の業務は忙しくなっており連携という面では厳しくなっているのかもしれない。

貴校の卒業研究であるが、研究テーマによっては大学と共同で実施できそうなテーマもあると思われる。例えば、当校の高橋研究室の学生も巻き込んで EV (電気自動車) やロボットの卒業研究を実施することも可能かもしれない。大学との連携方法としては、共同研究や受託研究、学術指導という制度があり、講師派遣については学術指導で派遣することもできる。

委員)マイスターハイスクールについて、育成事業が 2 年目にある。テクアカと連携している事業としてソーラーカーの授業がある。高校生は、組み立ての際の興味はあまりなく、ものが動き出すと興味を持ち始めるのが現状である。EV カーの話だと、コイルの巻き線の話である。夢中になった子供たちはひたむきにやり始める。

テクアカの連携についてだが、テクノアカデミー浜に入学する子たちは継続して能力を伸ばすようなコース（仕組み）があると良いのではないか。相双地区の高校では1,000人分を受け入れる器があるが、中学3年生は751人しかいない。定員の充足が物理的に不可能。実務系に興味を持った生徒は地域で育てなければならないのではないか。保護者の影響が強いと感じているが、普通高校出身の保護者であると自分の仕事以外の話がよく知らないのでアピールをするような、親子で一緒に取り組めるモノがあるといいのではないか。

委員）行政から見た所感。管内事業所では人手不足。新たな企業誘致に疑問の声も上がる。進出企業は人も一緒に連れてきてほしいと話をしている。事業継承する為の技術という意味でも、テクノアカデミー浜で人材育成を担うことも可能ではないか。

委員）子供の理科離れをなくす取り組みを実施している。中学校の先生が発起人である。時代の流れもアナログからデジタルに変わっているが先生方も対応に苦慮している。相馬市として時代の流れに沿った企業誘致と人材育成を進めている。人材育成も時代の流れと同じように進めてほしい。

委員）昨今の雇用状況は、12月末の相双地区の有効求人倍率2.02倍。郡山と同率で県内で最も有効求人倍率が高い。令和元年まで2倍を保っていたが、令和2年6月から2倍を切っている。昨年5月に一番低く1.41倍を記録している。コロナの影響がある。この地域の求人数は去年2月から3,500人前後に対し求職者が1,800人。直近12月では3,750人で復興関連が減ってる中、慢性的な人手不足が続いている。

求職者の動向は求人動向、復興関連が終了、最近の円安、原材料高騰、物価高を鑑みて求職登録している方が多い。さらに在職中の登録している方もいる。ここ対前年同月比増加傾向。求人について、建設業22%、最盛期3割。医療福祉製造業サービスも多くなっている。求職者の登録状況、昨年12月末時点60代が26%。50代が2番目に多い。南相馬市は70代の方が57,000人中9,500人から9,600人の推移。若年者がいない。就職したい人だが、若い人を雇用したいが約半数が45歳の方である。55歳以上は約30%。50代離職者・再就職者のパネルは見やすいようになっている。学卒者訓練の充足率。高校生について。毎年4月高校3年生に就職動向を調査している。850人の就職希望者が188名。547人に対して188名だと2.92倍。求人を出しても人手不足が明確である。こういった中でテクノアカデミー浜は地域にとって大事な場所になっている。魅力を情報発信してほしい。

委員）少子化が進行している中で、企業誘致も進んでいることもあり人材不足がとても顕著。人材育成機関として、テクノアカデミー浜に求められている役割や期待は大きい。アンケート調査で、テクノアカデミー浜を知らないと答えた高校生が68%いたというのは非常に厳

しい数字。企業ニーズに沿った内容にしていくことや、テク浜の理解促進・認知度向上が重要。南相馬市民は皆知っているような地域に根ざした学校にしていく必要がある。10月1日、2日にアウトオブキツザニアという職業体験イベントを開催したが、その際、テク浜では小中学生向けにオープンキャンパスを実施していただいた。親御さんも一緒に来るので、親御さんの理解にも繋がったと思う。就職実績のPRや卒業生の活躍を紹介することなども有効だと思う。

校長) 頂いた意見を実現するようにしていく。